(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第3678894号

(P3678894)

(45)発行日　平成17年8月3日(2005.8.3)　(24)登録日　平成17年5月20日(2005.5.20)

(51)Int.Cl.[7]	F I		
B65D 83/04	B65D	83/04	F
B65D 47/20	B65D	47/20	T

請求項の数 2　(全 6 頁)

(21)出願番号　特願平9-249887
(22)出願日　平成9年8月29日(1997.8.29)
(65)公開番号　特開平11-79262
(43)公開日　平成11年3月23日(1999.3.23)
審査請求日　平成14年10月31日(2002.10.31)

(73)特許権者　000006909
株式会社吉野工業所
東京都江東区大島３丁目２番６号
(74)代理人　100068157
弁理士　今岡　良夫
(72)発明者　桑原　和仁
東京都江東区大島３の２の６　株式会社吉野工業所内
(72)発明者　岸　隆生
東京都江東区大島３の２の６　株式会社吉野工業所内

審査官　阿部　利英

最終頁に続く

(54)【発明の名称】錠剤収納容器

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

中空体前壁２の上端部及び頂壁３の前端部を連続に開口すると共に、中空体周壁の壁内部に湾曲通路７を形成し、該湾曲通路後部の外壁部分に操作用窓孔１０を形成した容器本体Ａと、

上記開口部４近傍の左右両壁部分に、該開口部を開放自在に閉塞すると共に、蓋上面部分を錠剤収容凹面１８に形成した回動蓋１３を回動自在に保持させると共に、該回動蓋から突出した弾性材１６を、上記湾曲通路７内へ摺動自在に挿入させ、上記操作用窓孔１０に位置する弾性材１６先端部を操作端に形成した操作用部材Ｂとを有する、

ことを特徴とする錠剤収納容器。

【請求項２】

少なくとも上部横断面を長方形状とする中空体であって、該中空体前壁２の上端部及び頂壁３の前端部を連続に開口すると共に、前壁２部分と底壁５部分と後壁６部分との各内方に左右方向からみてＵ字形状の湾曲通路７を内外二重壁で形成し、又上記湾曲通路７後部の外壁部分を縦長に開孔して操作用窓孔１０を形成した容器本体Ａと、

上記開口部４下部内方の左右両壁部分に回動蓋１３下部を枢支させると共に、該回動蓋の下面後端縁から肉薄ヒンジ１５を介して突出した弾性帯板１６を、上記湾曲通路７内へ摺動自在に嵌合させ、上記操作用窓孔１０の上部内に位置する弾性帯板１６先端部の後面に操作釦１７を付設した操作用部材Ｂとからなり、

上記回動蓋１３の上面前端部と肉薄ヒンジ１５との間の回動蓋上面部分を、錠剤の少なく

とも過半部が嵌合可能な凹面に形成し、
該凹面内への錠剤嵌合状態から操作釦１７を下限まで押下げることで肉薄ヒンジ１５を介して弾性帯板１６が回動蓋１３の下面後端部を押上げて上面後端部を開口部４の上端縁へ近接させると共に、上記凹面内に嵌合された錠剤を、容器外方への取出しが可能な位置まで移送可能に形成した、
ことを特徴とする錠剤収納容器。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は錠剤を収納する錠剤収納容器に関する。
【０００２】
【従来の技術】
錠剤収納容器から錠剤を取り出す場合、一般に蓋を開く動作と容器を傾倒させて錠剤を取り出す動作とが必要になるが、一個の錠剤のみを取り出す場合にはさらに上記動作に加えて取り出された錠剤の数を確認し、多い場合には錠剤を小孔の取出口から容器体内へ戻す動作が必要になる。
【０００３】
【発明が解決しようとする課題】
上記のような錠剤収納容器では、一個の錠剤のみを取り出す場合には、上記の如く、取り出された錠剤の数を確認し、余剰分は容器体内へ戻す動作が必要になるため錠剤取出しが面倒であった。
【０００４】
請求項１及び２記載の錠剤収納容器は、開口部を開閉自在な回動蓋に錠剤収容機能を付与することで、回動蓋の開動作により所定数の錠剤を取り出し可能とするものである。
【０００５】
【課題を解決するための手段】
第１の手段として、中空体前壁２の上端部及び頂壁３の前端部を連続に開口すると共に、中空体周壁の壁内部に湾曲通路７を形成し、該湾曲通路後部の外壁部分に操作用窓孔１０を形成した容器本体Ａと、
上記開口部４近傍の左右両壁部分に、該開口部を開放自在に閉塞すると共に、蓋上面部分を錠剤収容凹面１８に形成した回動蓋１３を回動自在に保持させると共に、該回動蓋から突出した弾性材１６を、上記湾曲通路７内へ摺動自在に挿入させ、上記操作用窓孔１０に位置する弾性材１６先端部を操作端に形成した操作用部材Ｂとを有する。
【０００６】
第２の手段として、少なくとも上部横断面を長方形状とする中空体であって、該中空体前壁２の上端部及び頂壁３の前端部を連続に開口すると共に、前壁２部分と底壁５部分と後壁６部分との各内方に左右方向からみてＵ字形状の湾曲通路７を内外二重壁で形成し、又上記湾曲通路７後部の外壁部分を縦長に開孔して操作用窓孔１０を形成した容器本体Ａと、
上記開口部４下部内方の左右両壁部分に回動蓋１３下部を枢支させると共に、該回動蓋の下面後端縁から肉薄ヒンジ１５を介して突出した弾性帯板１６を、上記湾曲通路７内へ摺動自在に嵌合させ、上記操作用窓孔１０の上部内に位置する弾性帯板１６先端部の後面に操作釦１７を付設した操作用部材Ｂとからなり、
上記回動蓋１３の上面前端部と肉薄ヒンジ１５との間の回動蓋上面部分を、錠剤の少なくとも過半部が嵌合可能な凹面に形成し、
該凹面内への錠剤嵌合状態から操作釦１７を下限まで押下げることで肉薄ヒンジ１５を介して弾性帯板１６が回動蓋１３の下面後端部を押上げて上面後端部を開口部４の上端縁へ近接させると共に、上記凹面内に嵌合された錠剤を、容器外方への取出しが可能な位置まで移送可能に形成した。
【０００６】

【発明の実施の形態】
以下、本発明の実施形態を図面を参照しながら説明する。
図１において、Ａは容器本体で、横断面が長方形状の中空体の前壁２の上端部と頂壁３の前端部とを連続に開口して開口部４を形成する。前壁２部分と底壁５部分と後壁６部分との各内方に左右方向からみてＵ字形状の湾曲通路７を内外二重壁で形成する。
【０００７】
該湾曲通路は前壁２上端部において後方へ湾曲して後方湾曲通路部８を形成し、該後方湾曲通路部の上端部は開口部４よりも後方に位置すると共に、該後方湾曲通路部の上端は開口部４下縁よりも上方に位置し、また後方湾曲通路部８の外壁上端は前方へ延出して下方湾曲の延出壁９を形成する。
【０００８】
一方、後壁６上部における湾曲通路７の外壁部分を縦長に開孔して操作用窓孔１０を形成する。
さらに中空体の左右側壁上部内面を肉厚にして肉厚部１１を形成することにより図２に示すように左右側壁間の間隔を小さくして錠剤１２が重ならないようにする。
【０００９】
Ｂは操作用部材で、開口部４下部内方の左右両側壁部分に縦断面外形形状がＵ字状の回動蓋１３下部を回動軸１４を介して軸着させて該回動蓋１３下面を延出壁９前部上面へ近接させる。回動蓋１３の下面後端縁から肉薄ヒンジ１５を介して突出した可撓性を有する弾性帯板１６を湾曲通路７内へ摺動自在に嵌合させ、かつ操作用窓孔１０の上部内に位置する弾性帯板１６先端部の後面に操作釦１７を付設する。
【００１０】
そして回動蓋３の上面前端部と肉薄ヒンジ１５との間の回動蓋上面部分を、錠剤１２の少なくとも過半部が嵌合可能な凹面部１８に形成する。
なお、後方湾曲通路部８の曲率は該後方湾曲通路部から突出する弾性帯板１６の軌跡が肉薄ヒンジ１５の軌跡とほぼ相等しくなるように定める。
【００１１】
次に本実施形態の作用について説明する。
容器から錠剤を取り出すには、まず容器体体を前方へ傾倒させて倒立状態にすればよく、すると容器本体底部の錠剤は容器本体上部へ移動するが、容器本体上部の左右両側壁間は狭くなっているので錠剤１２が重なり合うことがない。そして容器本体上部へ移動した錠剤はさらに容器本体頂壁３と後方湾曲通路部８上端との間隙を通過する。この間隙は錠剤一個分を通す寸法であるためこの間隙で錠剤が詰まることがない。間隙通過後、錠剤の下半部が回動蓋１３の凹面部１８内に嵌合される。
【００１２】
容器本体傾倒後、操作釦１７を操作用窓孔１０の下限まで押し下げればよく、すると図２に示すように肉薄ヒンジ１５を介して弾性帯板１６が回動蓋１３を反時計方向へ回動させて回動蓋上面後端部を開口部４の上端縁へ近接させる。この回転蓋上面後端部と開口部４上端縁との間隔は錠剤の直径よりも小であるため、この間隔から錠剤が容器外へ出ることがなく、一方、回動蓋上面前端部と開口部上端縁との間隔は錠剤の直径よりも大であるから回動蓋１３の凹面部１８内の錠剤は容器外へ落下可能である。
【００１３】
錠剤取り出し後は、操作釦１７を操作用窓孔１０の上限まで押し上げればよく、すると回動蓋１３は時計方向へ回動し、回動蓋上面後端部が開口部４上端縁に当接すると共に、肉薄ヒンジ５は後方湾曲通路部８外壁上端の上方直近に位置する。
【００１４】
【発明の効果】
請求項１及び２記載の錠剤収納容器は、開口部４近傍の左右両壁部分に、該開口部を開放自在に閉塞すると共に、蓋上面部分を錠剤収容凹面１８に形成した回動蓋１３を回動自在に保持させると共に、該回動蓋から突出した弾性材１６を、湾曲通路７内へ摺動自在に挿

入させ、操作用窓孔１０に位置する弾性材先端部を操作端１７に形成したので、回動蓋の開動作により所定数の錠剤が取り出し可能であり、従って錠剤の数を確認する必要がないばかりか、余剰の錠剤が取り出されることがなく、このため余剰分を容器本体内へ戻すといった煩わしさからも解放されることになる。

【図面の簡単な説明】

【図１】本発明に係る錠剤収納容器の縦断面図。

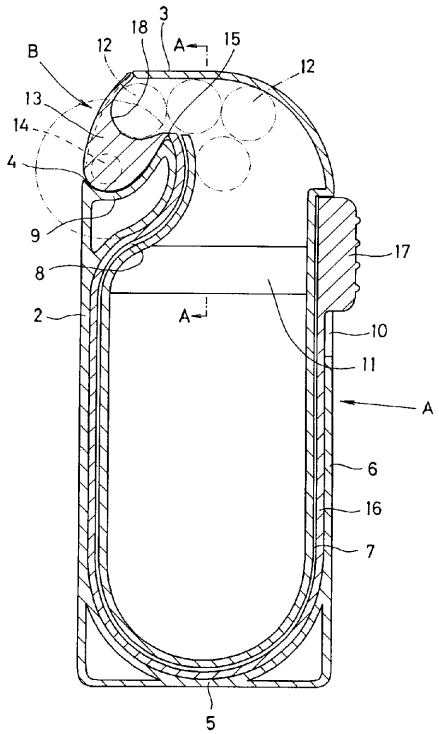
【図２】同じく、図１のＡ－Ａ線に沿う断面図。

【図３】同じく、錠剤取出し動作説明図。

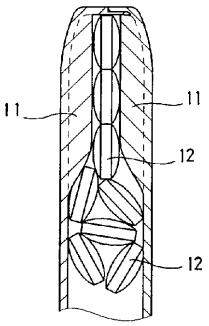
【符号の説明】

２　前壁
３　頂壁
４　開口部
５　底壁
６　後壁
７　湾曲通路
１０　操作用窓孔
１２　錠剤
１３　回動蓋
１５　肉薄ヒンジ
１６　弾性帯板
１７　操作釦
Ａ　容器本体
Ｂ　操作用部材

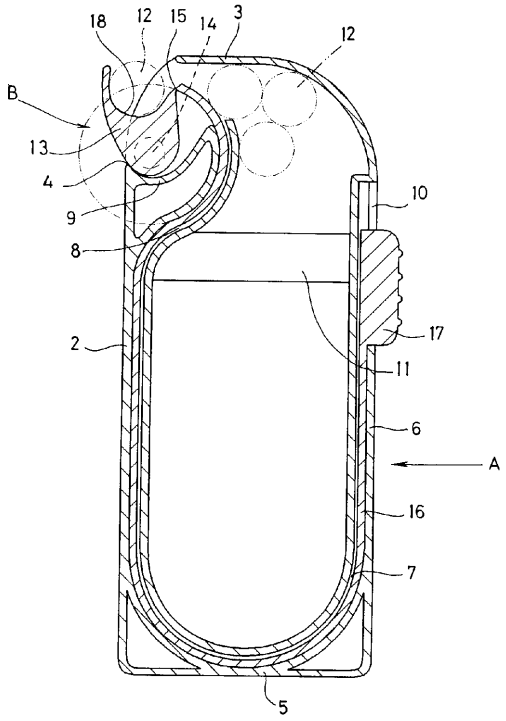
【図１】



【図２】



【図３】



フロントページの続き

(56)参考文献 実開平０３－０１５３８６（ＪＰ，Ｕ）
特開平０８－１８３５７１（ＪＰ，Ａ）
実開昭４８－０７１０３７（ＪＰ，Ｕ）
特開平０８－２９５３７５（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.[7]，ＤＢ名)
B65D 83/04
B65D 47/20
B65D 83/06